

- 1: 戯れ文
- 2: 《初回相談》
- 3: クライアント「被害者団体の集会にいくのですが、自分は『恵まれているので』
- 4: なにか申し訳ないような気がします」
- 5: カウンセラー「気の病ですよ。彼らはあなたの参加を喜んでますよ」
- 6: クライアント「いえ、糾弾されることも怖いのです」
- 7: カウンセラー「そんなことはありませんよ。気にしない」
- 8: クライアント「でも、やっぱり心配なんです。なにかいい方法はないでしょうか
- 9: ？」
- 10: カウンセラー「フランツ・ファノンでも処方しますか？」
- 11: クライアント「はい、おねがいします」
- 12: 《2回目の相談》
- 13: カウンセラー「どうですか？ファノンの効き目は？」
- 14: クライアント「ええもう、被害者団体の人たちを恐ることがなくなりました。負
- 15: い目も感じません」
- 16: カウンセラー「じゃあ、良かったんじゃない？」
- 17: クライアント「でも、気持ちが180度変わりました。副作用でしょうか？」
- 18: カウンセラー「どんなふうに？」
- 19: クライアント「私自身が被害者じしんになりたくてしょうがないのです」
- 20: カウンセラー「でも恐れは無くなったからそれでいいじゃん！」
- 21: クライアント「被害者自身に本当になりたいんです！」
- 22: カウンセラー「しょうがないなあ、じゃあ、今度はカラシニコフ（AK-47）を処
- 23: 方します。でも濫用に気をつけて、処方を守ってね！友達に転売したら、こっち
- 24: のライセンス取り消されるからね！ねっ！」
- 25: カウンセラー「体制も自己も変革は銃口から生まれるんですね！」